

# 強制連行の足跡をたどる旅

八月二三日—三〇日

村田 久

## 1・企画名

「強制連行の足跡を若者とたどる旅」

## 2・企画の趣旨・目的

かつて日本帝国主義によって強制連行され、炭坑労働・ダム工事など苛酷な労働を強いられた韓国人・朝鮮人の強制連行の足跡の一部を实地にたどることで、歴史および在日韓国人・朝鮮人と日本人がかかえている今日の問題について、正しい理解を深める学びの旅とする。

○ 在日韓国人・朝鮮人がかかえるさまざまな課題に取り組んできた人々には、自分たちの在日韓国人・朝鮮人問題への係わり方をとらえなおす場であり、自分たちの問題意識を若い世代へ伝える場として機能させる。

○ 二十一世紀を担う若者たちには、約七十万人の在日韓国人・朝鮮人が日本に定住を余儀なくされた歴史的事実（日帝の朝鮮侵略と植民地支配、強制連行）を伝え、もはや公教育には期待できない正しい歴史観を養うことができる一つの場とする。



### 3 企画の内容

下関から関釜フェリーで釜山へ渡り、大邱、ソウルと強制連行ゆかりの地を訪ね、再び下関に上陸。下関、北九州、筑豊、大牟田、長崎と強制連行された朝鮮人が強制労働に従事させられた跡地を訪ねる、八泊九日の旅。

### 4 日程

八月二二日 夕方 下関から関釜フェリーに乗船、釜山へ。船中泊

八月二三日 朝 釜山着 慶州を経て、大邱へ

夜、「中ソ離散家族会」との交流会。大邱泊

八月二四日 独立記念館・望郷の丘・パコダ公園を訪ねてソウル泊

八月二五日 釜山から関釜フェリーに乗船、下関へ。船中泊

八月二六日 下関へ上陸。下関、北九州の跡地を訪ねて、夜は「サハリンに強制連行され置き去りにされた韓国人・朝鮮人離散中ソ離散家族会に思いをはせる市民集会」を開催。北九州泊

八月二七日 筑豊の跡地を訪ねる。筑豊泊

八月二八日 大牟田三池炭坑にいまなお残っている「朝鮮人収容所」などを訪ね、大牟田泊

八月二九日 強制退去される人が収容されている「太村収容所」を訪ねて、長崎へ、長崎泊。

八月三〇日 高島へ渡り、高島炭坑跡地を訪ね、午後長崎市長を表敬訪問。

### 4 旅の参加者

国内の部分参加を含めて総勢六三名。うち中・高生一三名。若者（二四才まで）一七名。

### 5 「たどる旅」が実現するまで

九州・山口では、「ピープルズ・ブランチ二十一世紀」の呼びかけに応じて八八年七月に水俣で「PP21」九州・山口第一回合宿が開かれたが、その席で在日韓国人・朝鮮人問題についての企画が参加者から提起された。これは「PP21」の呼び掛けをこれまで指紋押捺拒否斗争などに在日韓国人・朝鮮人問題にかかわって来た人たちが「アジアとともに」というPP21のよびかけを「内なるアジア民衆である在日韓国人・朝鮮人」ととらえての「PP21」への参加だったからである。

水俣合宿では青写真の段階であったが、八九年に入り、北九州・下関に「P P 21」実行委員会が誕生し、両者のよびかけで「強制連行の足跡を若者とたどる旅」実行委員会が誕生し、企画が実現したものである。

青写真の段階から問題になったのは、韓国内での行動が単なる観光ということではなく、現地の人たちとの出会いと交流を主題にしているだけに、現地受入をどのようになかたちで実現するかということである。それは韓国にまったく手がかりがないということではなく、逆にキリスト者や日韓連帯運動などルートがありすぎて、「たどる旅」の趣旨に沿った韓国の運動体とのコンタクトに迷いがあったからである。

「たどる旅」が日帝の朝鮮侵略・植民地支配そして強制連行の結果、七〇万もの在日韓国人・朝鮮人の日本定住を余儀なくさせていることを主題にしていることから韓国内での受入を、サハリン残留同胞の帰国運動に取り組んでいる「中ソ離散家族会」にお願いすることになった。

## 6 「たどる旅」の中で

「たどる旅」の参加者の大部分は訪韓が初めてだったが、大邱の中ソ離散家族会との交流会で、サハリンに強

制連行された夫を四十数年にわたって待ちわびているハルモニ（おばあさん）の鋭い証言（発言）は、たいへんなショックであったし、パコダ公園で十数人の韓国人から取り囲まれ、口々に「日本への糾弾と、日本人が何をしにきたのか」と詰めよられたことも貴重な体験になった。

中ソ離散家族会会長の李斗勲（イ・ドゥフン）氏は釜山から「たどる旅」に同行され、北九州での市民集会で講演、長崎では本島市長を表敬訪問し、本島市長の誠意ある応対には、同席した「たどる旅」参加者も深い感銘を受けた。

李斗勲氏の来日が確定した時点で、北九州での市民集會が準備されたが、「たどる旅」実行委員会とは別枠で市民集會実行委員会をつくる試みは周辺の関心の低さもあって失敗し、「たどる旅」実行委員会が旅の準備と実行に追われる中で取り組むことになった。

定席三八〇の会場については、「たどる旅」実行委員会の中でも危惧する意見がでた。というのは、北九州での民族差別問題についての集會参加者は、八五年指紋押捺拒否運動の最盛時でも一五〇人程度で、世論が冷えている現在で、かつあまり知られていないサハリン問題についての集會では五〇人からせいせい一〇〇人が限度だというのが、ある意味では正確な状況分析だったからである。

それを強引に推進できたのは、「やるしかない」という熱意と、それを引き起こした「たどる旅」の準備過程で生まれた熱気である。

どの程度の参加者になるかは当日まで掴めず、会場をアコーディオンカーテンで半分にしての開場だったが、結果的に定席をほぼ埋める350人余りが参加し、講演後の質疑でも緊張した雰囲気になるなど大成功に終わった。

「強制連行の足跡を若者とたどる旅」という硬派の企画にどの程度の反響があるかに不安があり、とりわけ若者たちがどれだけ関心を持つかは企画した熟年実行委員にはまったく自信がなかった。何とか若者の参加を実現しようというので、「若者への参加費用補助を行なう。そのための賛同カンパを集める」ことにした。

旅の参加希望者は六月末から続々とふえ始め、定員を三〇名から四五名（韓国での貸切りバスの最大定員）に増やしたあとでも一〇名以上のキャンセル待ちが出るほどだった。中・高生を含む若者の参加も在日韓国人・朝鮮人三世の若者たちを含め三〇名と、「若者とたどる旅」の名前に恥じない企画となった。とくに参加した中・高生の問題意識の確かさには、熟年実行委員をいたく感動させた。

「PPP21」九州・山口の第三回大牟田合宿・「内なる国際化を求めて・在日韓国人・朝鮮人問題を考える」に

北九州在住の在日韓国人二世ベトンノクさんが参加し、それが縁で「たどる旅」の実行委員にたことで「たどる旅」の内容がいつそう充実した。べさんはビデオ好きで北九州アマチュア映像連盟のメンバーである。彼の努力で映像連盟会長のTさんもべさんと一緒にビデオカメラを持って「たどる旅」に参加、両人が撮影した生テープは二十数時間もの長さである。いま韓国編・国内編のふたつにまとめる作業に追われているが、自分たちの記録を映像で表現する試みとして注目したい。

## 7 財政

旅に直接必要な費用（移動・食事・宿泊費用）は参加者の負担であるので、心配だったのは、参加した若者たちの分担金の一部補助をするための賛同カンパが集まるかどうかということと、李会長来日・滞在費用・講演謝礼が市民集會カンパでまかなえるかどうかが懸念されていた。

賛同カンパについては、一三〇人を越える人たちからのカンパがあり充分でまかなうことができた。また、北九州での市民集會では一五万二千円の中ソ離散家族会への会場カンパが集まり、集會費用も参加者の入場カンパがあった。

## 8 苦勞話・失敗話

「旅」の企画などまったく経験のない者たちの実行委員会だったので、大変な失敗もあったし、旅にはつきもののハブニングもあって、後では笑い話であってもその時は大変なものであった。

最大の失敗は、関釜フェリーの予約に失敗して日程が三週間遅れたことである。下関在住の実行委員が「関釜フェリーは当日の朝にいても六〇人くらいなら大丈夫」と大きな地声で話したのを真に受けて予約をしないままに「旅の企画」を発表したことである。趣意書の第二報（一〇ページ建てのパンフ）発送日に、彼が「フェリーはいっぱいで駄目だった」と報告して一同はがく然とした。結局三週間遅らせることで予約することができたが、そのことで「PP21」の水俣国際集約会議・アジアンフェスティバルと完全にダブッてしまい、「PP21」全体の企画からはみ出た形になってしまった。

実行委員も海外旅行に不慣れなら、参加者の大半が海外旅行ははじめてということ、パスポート・ビザの申請にとまどい、フェリーの乗船名簿の提出にパスポート番号が必要だということも直前に知って大慌てをした。

広島から参加したEさんは、帰りのフェリー乗船直前にパスポートをタクシーに置き忘れ、三日間余計に韓国に滞在することになった。Eさんは二九日に帰国、長崎

で旅の一行に合流して、旅の最後の夜を皆と過ごした。普通であれば、そのまま広島に帰るところをわざわざ長崎まで一行を追いかけたところに、「たどる旅」へのEさんの思いが感じられる。

## 9 「たどる旅」を振り返って

失敗やハブニングに見舞われながらも結果的にはうまく着地して、「たどる旅」参加者に深い感銘を与えて、「たどる旅」そのものとしては成功理に終えることができた。

「たどる旅」で得た教訓は来年度の「たどる旅」で生かすことができると思うが、「ピーブルズ・プラン二十一世紀」との関連でとらえた場合には不十分さが残る。「たどる旅」は単なるツアーではなく、在日韓国人・朝鮮人への行政姿勢調査・アジアンフェスティバルへの「強制連行写真パネルの展示」など、写真真の段階では描かれていながらも力量の足りなさから実現していない。「ピーブルズ・プラン二十一世紀」の運動全体の中の位置づけも曖昧であったために、「PP21」北九州と下関の共同提起で「たどる旅」実行委員会が発足し、提起者がそのまま実行委員会事務局を担っているから実務に忙殺されてしまって、「たどる旅」参加者や「たどる旅」

の成功に協力した人たちに「ピールズプラン二十一世紀」のことをほとんど伝えることができなかつたことに深い後悔が残る。

水俣での国際集約会議で在日韓国人・朝鮮人問題を提起すべきだという意見が事務局の中で出されながらも実際には何の動きもできなかったし、アジア・太平洋諸国から大勢のゲストを迎えての国際会議で在日韓国人・朝鮮人の主体的な参加が得られなかつたのは、「内なるアジア民衆とともに」を標榜して来た者としてはまったく残念だつた。

## 10 「たどる旅」のこれから

「たどる旅」実行委員会は、今年だけでなく来年度も継続することを前提にして発足した。また「たどる旅」の中のミーティングで参加者をつなぐサークルを作ろうという意見が多く出ている。

このようなことから、「たどる旅」実行委員会を解散し、新しく「強制連行の足跡を若者とたどる旅」というサークルとして発足しようということになっている。



ウリ文化研究所編『韓国民衆版画集』御茶ノ水書房より

